



タイトル「**2024年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1111		
科目名	文章表現 1		
担当教員	小泉 夏子		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 1		
講義室	1001	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類			
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D〔市民的素養と市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観、動機を動員することができる。 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、日本の精神文化を理解し異文化との交流の重要性を認識することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章を読解し、情報の収集と取捨選択、分析を円滑に粉うことができる。 DP6-k〔表現力・対話力、ライティングコミュニケーション、オーラルコミュニケーション〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A1 文化的自己意識、文化的多様性への理解（10%） A2 異文化適応、言語的コミュニケーション（10%） D1 文化的素養、知識の獲得、市民参加のためのコミュニケーション、市民的行動と省察と参加（40%） I1 内容理解、文理構造の分析、解釈、読者の声（15%） I2 表現、コミュニケーション（5%） K1 ライティング・コミュニケーション、目的及び文脈の理解、構成、内容の展開（10%） K2 オーラル・コミュニケーション、内容の構造化、言葉選び、話しの運び（10%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 1 萌芽期～2進行期		
科目概要・キーワード	大学で学ぶにあたって必要とされる文章作成、レポートの書き方を基礎から学びます。主語述語の的確な使用、句読点の効果的な打ち方、原稿用紙の使い方、ワープロソフトの使い方、書式設定、表紙の付け方など基本的事項を踏まえ、レポートを書くまでに至る方法を修得します。また、e-learning教材を用いて弱点をみつけ、基礎文章力を強化します。 授業形態は、講義＋演習形式により行います。 なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するために、オンライン授業を一部取り入れます。 キーワード：文化的素養と知識の獲得・分析と読解・表現力と対話力、ライティング・コミュニケーション、オーラル・コミュニケーション		

授業の趣旨	■副題 競技スポーツに関わる上で必要な分析力、表現力を身につけましょう。 ■授業の目的 アスリートやコーチを目指すうえで競技スポーツに必要な分析力、探求力、表現力、対話力を修得し、他者理解能力など競技スポーツのゼネラリストとしての能力を身につけます。 ■授業のポイント 大学生活に必要なレポートや論文の作成能力を養成します。文章作成の上で必要な効果的な読点の打ち方や段落の取り方、表紙のつけ方など基礎的な学習から始めます。文章表現能力やプレゼンテーション能力を身につけましょう。	
総合到達目標	■市民的素養と市民的教養を身につけるために、日本語の文法と文章の構造を正しく理解する。 ・正しい文法と表記方法で文章を書くことができる。(1～4回) ・論理的な文章の構造を理解し、筋の通った文章を書くことができる。(1～4回) ■日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢を身につけるために、日本語・日本文化の理解を深め、さらに他者や異文化との交流を重視する態度を習得する。 ・日本語の語彙を増やし、適切な表現によってわかりやすい文章を書くことができる。(2～14回) ・他の学生と相互批評し、意見を交換することができる。(4、12、13回) ■理解力・分析力・表現力・コミュニケーション能力を高めるために、文章を正確に読解・分析し、自らの考えを的確に表現する技能を身につける。 ・課題に対して自ら考え、具体的な理由を示してその考えを説明することができる。(2～14回) ・レポートやプレゼンテーション資料など実践的な文章を書くことができる。(2～14回)	
成績評価方法	■文章作成およびリアクションペーパー（40%）:適用ルーブリック A1,D1,I1,I2,K2 (評価の観点) 課題を正確に理解し、自らの考えを的確に表現できているかを問います。論の構成や表現が適切かどうかを評価します。 (フィードバックの方法) 学生間の意見交換や教員の指導によって改善点などを示します。 ■課題レポート、学術論文（60%）:適用ルーブリックK1,I1 (評価の観点) 先行する学術論文の分析、文脈の理解などが正確になされているか、また、それをふまえて論が立てられているかを問います。レポートの論理構成や表現が適切かどうかを評価します。 (フィードバックの方法) 教員の指導によって改善点などを示します。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	文章表現は、言葉を使って表現していきますので、書物、雑誌、新聞など日常生活の中で「読む」習慣を身につけましょう。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方などの説明） ②授業概要 ガイダンス授業。授業の内容やスケジュール、成績評価の方法について理解できるようになる。(A1、A2) ③予習（120分） 自己紹介文を書いてみる。 ④復習（120分） 論理的な文章の形式を再度確認する。「最適な朝食」について情報を整理する。
	2	①授業テーマ 文章の書き方の基礎的な事項を確認し、論理的な文章の練習課題を作成する（1） ②授業概要 授業冒頭に、e-learning教材を用いて、文章作成の基礎的なスキルの確認、養成を行う。その後、論理的な文章作成の練習課題として、レポート「最適な朝食」を書き、文章の基本的な書き方を習得できるようになる。(I2、K1、K2) ③予習（120分） 論理的な文章の形式を復習する。「最適な朝食」について考えを整理する。 ④復習（120分） 練習課題を読み直し、文章の書き方の基礎的な事項を確認する。
	3	①授業テーマ 文章の書き方の基礎的な事項を確認し、論理的な文章の練習課題を作成する（2） ②授業概要 授業冒頭に、前回e-learning教材で学習した内容の復讐を行う。その後、論理的な文

	章作成の練習課題として、レポート「アスリートに適した食事」を書き、文章の骨組みを意識しながら文章を書く技術を身につけることができるようになる。（A2、I2、K1、K2） ③予習（120分） 「アスリートに適した食事」についての情報を整理する。 ④復習（120分） 練習課題を読み直し、文章の書き方の基礎的な事項を確認する。
4	①授業テーマ 文章の書き方の基礎的な事項を確認し、論理的な文章の練習課題を作成する（3） ②授業概要 授業冒頭に、e-learning教材を用いて、文章作成の基礎的なスキルの確認、養成を行う。その後、論理的な文章作成の練習課題として、レポート「関心事」を書き、ロジカルシンキングの手法を用いて結論が明確に伝わるような文章を書く技術を身につけることができるようになる。（A2、I2、K1、K2） ③予習（120分） 自分の最近の「関心事」についての情報を収集する。 ④復習（120分） 練習課題を読み直し、文章の書き方の基礎的な事項を確認する。
5	①授業テーマ 文章の書き方の基礎的な事項を確認し、論理的な文章の練習課題を作成する（4） ②授業概要 授業冒頭に、前回e-learning教材で学習した内容の復讐を行う。その後、論理的な文章作成の練習課題として、レポート「気になる人物」を書き、資料を用いて説得力のある文章を書く技術を身につけることができるようになる。（A2、I2、K1、K2） ③予習（120分） 自分の「気になる人物」についての情報を収集する。 ④復習（120分） 練習課題を読み直し、文章の書き方の基礎的な事項を確認する。
6	①授業テーマ 文章の書き方の基礎的な事項を確認し、論理的な文章の練習課題を作成する（5） ②授業概要 授業冒頭に、e-learning教材を用いて、文章作成の基礎的なスキルの確認、養成を行う。その後、論理的な文章の練習課題として前回作成したレポート「気になる人物」を推敲し、形式の整った文章を書く技術を身につけることができるようになる。（A2、I2、K1、K2） ③予習（120分） 自分の「気になる人物」についての情報を整理する。 ④復習（120分） 練習課題を読み直し、文章の書き方の基礎的な事項を確認する。
7	①授業テーマ 新聞・雑誌に掲載されたインタビュー記事を読み、内容を要約する。 ②授業概要 授業冒頭に、前回e-learning教材で学習した内容の復讐を行う。その後、新聞・雑誌に掲載されたインタビュー記事を読み、全体の構成や表現方法など、読者をひきつけるポイントを確認し、インタビュー記事の基本形式を説明することができるようになる。（A1、I1、K1、K2） ③予習（120分） 新聞・雑誌に掲載されたインタビュー記事を読み、人に読んでもらうための工夫がどのようなになっているのか、構成に注目してノートにその流れを書く。 ④復習（120分） 要約を仕上げる。
8	①授業テーマ 短いインタビュー記事を作成する（1）インタビュー ②授業概要 授業冒頭に、e-learning教材を用いて、文章作成の基礎的なスキルの確認、養成を行う。その後、興味のある人物にインタビューし、相手が話した内容を的確に捉える技術を身につけることができるようになる。（A2、D1、I1、I2、K1、K2） ③予習（120分） 質問内容をインタビューする相手に分かりやすく伝えられるように考えて準備する。 ④復習（120分） インタビューした内容を整理し、質問事項など不足分はないか点検する。

9	①授業テーマ 短いインタビュー記事を作成する（2）下書き ②授業概要 授業冒頭に、前回e-learning教材で学習した内容の復讐を行う。その後、インタビュー内容を文章にまとめるための下書きを作成し、文章構成を練る技術を身につけることができるようになる。（A2、D1、I1、I2、K1、K2） ③予習（120分） インタビューした内容を整理し、質問事項など不足分はないか点検する。 ④復習（120分） 下書きを読み直し、文章の論理構成を再度確認する。
10	①授業テーマ 短いインタビュー記事を作成する（2）文章にまとめる ②授業概要 授業冒頭に、e-learning教材を用いて、文章作成の基礎的なスキルの確認、養成を行う。その後、インタビュー内容を1,000字の文章にまとめ、長い文章を書く力を身につけることができるようになる。（A2、D1、I1、I2、K1、K2） ③予習（120分） インタビューメモを読み直し、どのような文章にするか考える。 ④復習（120分） 授業で書いた文章を推敲し、書き直す。
11	①授業テーマ 長いインタビュー記事を作成する（1）インタビュー及び下書き ②授業概要 授業冒頭に、前回e-learning教材で学習した内容の復讐を行う。その後、前回の経験を踏まえ、再度興味のある人物にインタビューし、相手が話した内容をよりの確に捉える技術を身につけることができるようになる。（A2、D1、I1、I2、K1、K2） ③予習（120分） 質問内容をインタビューする相手に分かりやすく伝えられるように考えて準備する。 ④復習（120分） インタビューした内容を整理し、質問事項など不足分はないか点検する。
12	①授業テーマ 履修者が作成した短いインタビュー記事を読む。 ②授業概要 授業冒頭に、e-learning教材を用いて、文章作成の基礎的なスキルの確認、養成を行う。その後、履修者が作成した短いインタビュー記事を読み、全体の構成や表現方法など、読者をひきつける文章を書く技術を理解し活用できるようになる。（A1、I1、K1、K2） ③予習（120分） 履修者が作成したインタビュー記事を読み、人に読んでもらうための工夫がどのようになされているのか、構成に注目してノートにその流れを書く。 ④復習（120分） 自分の記事の改善点、問題点を書き出す。
13	①授業テーマ 長いインタビュー記事を作成する（2）文章にまとめる ②授業概要 授業冒頭に、前回e-learning教材で学習した内容の復讐を行う。その後、インタビュー内容を2,000字の文章にまとめ、前回よりもさらに長い文章を書く力を身につけることができるようになる。（A2、D1、I1、I2、K1、K2） ③予習（120分） インタビューメモを読み直し、どのような文章にするか考える。 ④復習（120分） 授業で書いた文章を推敲し、書き直す。
14	①授業テーマ 長いインタビュー記事を作成する（3）推敲し完成させる ②授業概要 前回書いた2,000字のインタビュー記事を推敲し、文章の構成、表現方法、語句など細部まで整った文章を書く技術を身につけることができるようになる。（A2、I2、K1、K2） ③予習（120分） インタビュー記事（2,000字）を読み直す。 ④復習（120分） これまで学習した文章の書き方を復習する。

	15 ①授業テーマ これまで行ってきたことを振り返り、主観的文章、客観的文章、人に説明する際に必要なわかりやすい文章の書き方などの要点を修得する。 ②授業概要 これまでの書いてきたものを振り返り、レポート作成の基本的事項を説明できるようになる。(A1、A2、D1、I1、I2、K1、K2) ③予習(120分) これまで書いてきたものを再点検する。 ④復習 文章作成の原則を復習し、確認する。
関連科目	文章表現 2 RMGT/SSCS1112
教科書	なし。
参考書・参考URL	授業内で適宜説明します。
連絡先・オフィスアワー	水曜日・木曜日昼休み。
研究比率	

